

2026年度一橋大学法科大学院入学者選抜試験問題

小論文

解答上の注意

1. 問題文は6頁、解答用紙は1枚（表・裏）、下書用紙は1枚です。
2. 解答用紙に、一橋大学の受験番号を記入してください。氏名は絶対に記入しないでください。
3. 解答は横書きにしてください。
4. 解答用紙は、受験番号を記入する面が表になります。問1を表に、問2を裏に解答してください。解答用紙は、白紙である場合も含め、提出してください。
5. 解答用紙の追加、交換はしません。
6. 解答用紙の余白は採点者が使用するので、誤字脱字の訂正のほかは使わないでください。
7. 問題の内容についての質問には、応じません。
8. 試験終了後、問題文と下書用紙は、持ち帰ってください。

問題

〔問題文〕を読んで、問1、問2に答えなさい。

問1 下線部(A)「『素朴な歴史観』『演繹論理のみで理解しようとする姿勢』を反省するためには、それぞれの国や地域の経済発展の形態を比較することが重要になる」とあるが、筆者はなぜそのような考えるのかについて、〔問題文〕の趣旨をふまえ、詳しく説明しなさい。(句読点も1字と数え、800字以内とする。)

問2 下線部(B)にあるように、人間の判断には「プロスペクト理論」が指摘する体系的なバイアスが存在する。〔問題文〕で論じられている「比較研究」という手法を用いてこうした思考の偏りを克服することができるとすれば、どのような視点や方法論的留意点が必要か。筆者の議論をふまえつつ、あなた自身の考えを論じなさい。(句読点も1字と数え、1000字以内とする。)

〔問題文〕

(この問題は著作権の関係により、文章の出典と引用箇所のみを表示します。)

【〔問題文〕は猪木武徳『経済社会の学び方』(中央公論新社、2021年)72-83頁からの抜粋である。原文の一部を省略し、表記を変更した箇所がある。】